第２号
令和３年10月12日発行

自主学習通信

～引き出せ！子どもの力！！～

《目次》

P1　自主学習を体系的に整理しよう
第2教育ブロック代表 大畑 和彦 都島区担当教育次長
P2　第2教育ブロック 自主学習推進デザインシート
P3　「共通テーマ」でイメージ共有 やってみよう！自主学習
P5　令和3年度 第1回自主学習推進チーム会議
P7　主体的に学び続ける力を育む自主学習習慣のあり方
大阪市立横堤中学校長 井寄 芳春
P11　実践校紹介 鴫野ノートの導入を通して見えてきた成果
～大阪市立鴫野小学校～

大阪市教育委員会事務局
第２教育ブロックグループ

「自主学習を体系的に整理しよう」

第２教育ブロック代表
都島区担当教育次長　大畑　和彦

今年度、第２教育ブロックでは、「自主学習ノート」をなんらかの形で導入していただいている小学校は約９６％、中学校でも約７６％もあり、ブロック代表として大変うれしく思っています。これも先生方の日頃のご指導の賜物であり、あらためてご努力に心より感謝申しあげます。

さて、この自主学習通信も今回で2回目の発行になります。前回は「第2教育ブロックは、なぜ自主学習習慣の確立に力を入れるのか？」というテーマで、自主学習習慣の必要性について書かせていただきました。今回は「自主学習を体系的に整理しよう」ということで、「デザインシート」を添付させていただきました。（Ｐ２参照）

第2教育ブロックで自主学習ノートを一斉導入してから1年近くが経ち、少しずつ成果が出ている反面、導入にあたってさまざまな課題にぶつかり、頭を悩ませている先生方も多くいらっしゃるのではないでしょうか。そこで、今回は自主学習について簡単に整理をしておきましょう。

まず、自主学習（ノート）は何のため（目的）に実施するのか？これは一言でいえば「自主学習習慣の確立」のために実施をしています。前回も書きましたが、自主学習（ノート）を習慣化することで、知らず知らずのうちに、自ら主体的に学習する習慣が身につき、どんな環境でも自主学習できる学びのスタイルを早期に確立することを『目的』にしています。

したがって、導入がうまくいかなくても、決して自主学習ノートを宿題にしないで欲しいと思っています。宿題にした途端、それは自主学習ではなく、提出義務のある強制学習になってしまうからです。自主的に児童・生徒がノートを提出するまでには紆余曲折があり、一筋縄ではいきません。しかし、「急がば廻れ」で、気長に（自分の担当年度では１０人しか提出しなくても、次の進級学年で半分くらいの児童・生徒が提出してくれれば良いぐらいの気持ち）構えていただくことが大切だと思っています。

そして自主学習習慣が確立したその結果として、基礎学力の向上が見られたり、読解力が向上したり、あるいはノートを提出していく過程の中でさまざまな「自信」がつき「自己肯定感」が高まってくるはずです。これが、『成果』です。

さらに今後は紙の自主学習ノートではなく、ICTを活用したデジタルノートの可能性はどうなのか？1人1台パソコンが整備され、オンラインでのICT教育が急速に進歩していく中で、考えていく必要があるテーマです。又、ノートがどうしてもなじまない、中学3年生（受験生）などにはノート以外に「レポート・プリント学習・ドリル」などを使った自主学習には、どんな方法が考えられるか？こういった、「自主学習習慣を確立するために自主学習ノート以外にどんな『手段』があるのか」は、継続して議論をしていく必要があります。

今後、自主学習について、推進チーム会議や各学校で話し合いを進めていただく上で、「今、自主学習の何について議論をしているのか？」という議論のテーマを常に意識しておかないと、議論があっちこっちに飛んでしまうだけで、実りあるものにならないことになりかねません。デザインシートを確認していただきながら、これからも実りある意見交換をすることにより、子どもたちの自主学習習慣が確立し、更なる「成果」が表れることを願っています。

令和4年度には、第２教育ブロックは『自主学習（ノート）の推進により基礎学力が向上した証として、全国学力学習調査の正答率が全国平均を上回る』というのが、「成果目標」の1つでもあります。令和3年度の第２教育ブロックの全国学力学習状況調査の対全国比は、【小学校】国語1.02 算数1.03【中学校】国語0.98 数学1.00と中学校の国語以外は全国平均と同じ若しくは上回っており、かなり良い結果を出すことができました。第２教育ブロックが全国平均を上回るのも、あと少しの努力で可能なところに来ています。基礎学力をつけることは、子どもたちが未来を生き抜くための力として絶対に必要なことだと思っています。

このコロナ禍で、将来突然、学校休業で家庭学習を強いられる可能性は十分にあります。

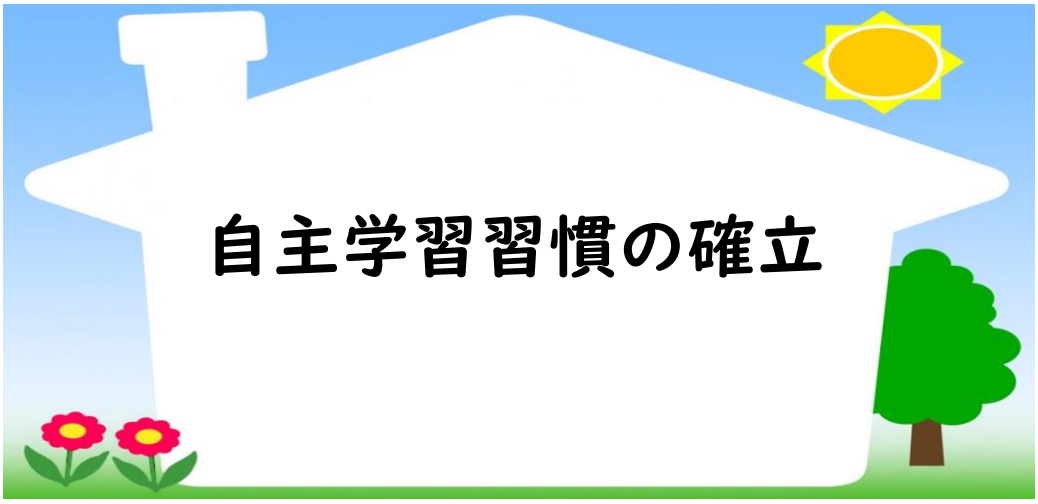
第２教育ブロックでは、どんな環境でも主体性を持って、自ら学習できる児童、生徒の育成に引き続き注力して参りたいと思います。

先生方のご理解・ご協力と引き続きのご指導を何卒よろしくお願いいたします。

第２教育ブロック
自主学習推進デザインシート

自主学習ツール（手段・方法）

- 自主学習ノート
- ICTを活用したデジタルノート
- 各種検定・定期テスト対策、プリント学習等



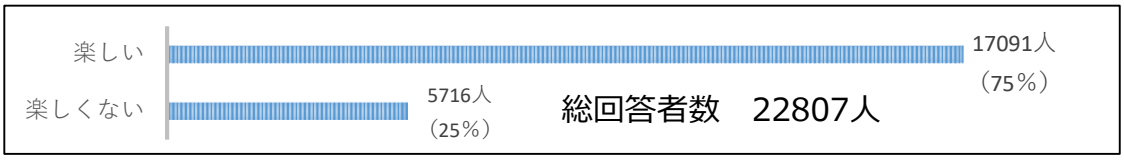
〇読解力の向上
〇基礎学力の向上
〇自信につながる

①自分を知る
②苦手を克服する
③得意をさらに高める
④一人で学びを進める
⑤一人ひとりが尊重される
⑥ほめられる、認められる
…ことで自信がつきます。

「共通テーマ」でイメージ共有
やってみよう！自主学習

今年度は、各校の自主学習の取組をさらに進めることができるよう、「自主学習のテーマ」として「“自信”につながる自主学習習慣～学びの『個別最適化』と『協働化』を通して～」を自主学習推進チームより提案します。この提案については、令和２年度末に各校にご協力いただきました「自主学習習慣の確立に向けた取組に関するアンケート」のうち、児童生徒と管理職向けに、自由記述回答をベースに作成いたしました。アンケート結果を次の表にまとめましたので、ご覧ください。

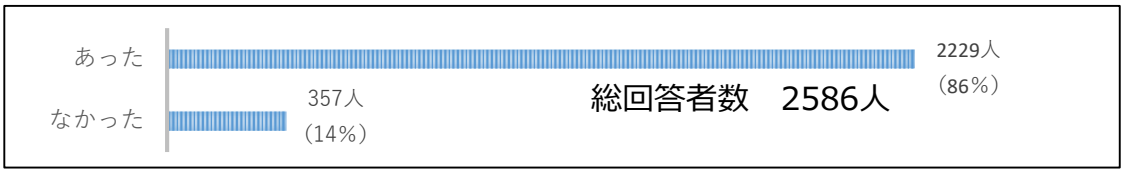
【児童への質問】自分で計画を立てて学習（予習・復習・興味のあることを調べるなど）をすることは、楽しいですか。



【「楽しい」と回答した児童生徒の自由記述】		小3～6 回答数	中１ 回答数	合計	割合
1	理解度・習熟度の高まりを実感できるから	703	92	795	41%
2	方法・内容を自分で決められるから	569	69	638	33%
3	視野・興味関心が広がるから　将来に役立つから	202	21	223	11%
4	達成感が得られるから（ノートが増えて嬉しい等）	100	25	125	6%
5	普段から進んで学習しているから	79	2	81	4%
6	親・友達・先生からほめられるから	26	1	27	1%
7	人との関わりがあるから（学んだことを発表できる・教えられる等）	20	1	21	1%
8	その他（ご褒美がある・なんとなく・暇つぶし等）	46	6	52	3%
計		1745	217	1962	100%

【「楽しくない」と回答した児童生徒の自由記述】		小3～6 回答数	中１ 回答数	合計	割合
1	何をしていいか分からない・方法が分からない・難しいから	161	32	193	19%
2	時間がないから	55	12	67	7%
3	他の宿題・習い事・塾との両立が難しいから	47	4	51	5%
4	内容があらかじめ決められているから	40	4	44	4%
5	主体的ではないと感じるから	27	12	39	4%
6	成果が実感できないから	28	4	32	3%
7	その他（勉強が面白くない・遊びたい・面倒・興味がない等）	486	86	572	57%
計		844	154	998	100%

【教員への質問】児童生徒の自主学習習慣の確立に向けた取組を行うことで児童生徒の変化はありましたか。



【「変化があった」具体的内容】		小3～6 回答数	中１ 回答数	合計	割合
1	学習への意欲的態度、学校生活への主体的態度が見られた	120	39	159	64%
2	興味関心の広がりが見られた	31	2	33	13%
3	学習の質が向上した（見やすいノートづくり・丁寧な字）	15	1	16	6%
4	成績が向上した	10	5	15	6%
5	家庭学習の時間が増加した	2	7	9	4%
6	児童生徒どうしのコミュニケーションの機会が増えた	4	2	6	2%
7	その他（自主学習への理解が深まった・保護者の関わりが増えた）	8	3	11	4%
計		190	59	249	100%

【「変化がなかった」具体的内容】

		小3～6 回答数	中１ 回答数	合計	割合
1	児童生徒の自主性に任せているため	8	2	10	23%
2	指導方法が分からない・指導力不足	5	0	5	11%
3	以前からの取組みとして自主学習を行ってきたため	5	0	5	11%
4	他の宿題等で自主学習に取組む余裕がない	3	0	3	7%
5	（学校・学年等で）意思統一ができていない	1	1	2	5%
6	その他（取組期間が短い・教科によってばらつきがある等）	13	6	19	43%
計		35	9	44	100%

データを集約した結果、２つの課題が見えてきました。まず、自主学習は「（取組の自由度が高いが故に）楽しい」と感じる児童生徒が多数いる一方、「どうしていいかわからない、難しい」と感じる児童生徒も多数いるということです（教員アンケートにも否定的な内容に同様の傾向が見られます）。この課題に対し、自主学習推進チームでは、今年度、自主学習の共通テーマを各校に提示し、それを先生方が児童生徒と共有していただくことで、自主学習のイメージを捉えやすくなるのでは、と考えました。学級や学年、学校でテーマを共有することで、全員が同じ視点で自主学習を進められるため、集団での学びにつなげやすくなるのではないでしょうか。

次に、自主学習を楽しいと回答した児童生徒の理由として、「理解度・習熟度の高まりを実感できるから（授業が理解できる・テストの点数が上がる）」という、学習の成果が比較的短期間で実感できる点を挙げる児童生徒が多く、「視野・興味関心が広がるから」「将来に役立つから」という比較的時間がかかると思われる成果を挙げる児童生徒は、相対的に少ないということです。

自主学習推進チームとしましては、学力向上もさることながら、生涯学習やキャリア教育にも通じるような、長期的な見通しを持った取組として、自主学習習慣の確立を推進したいと考えております。そのため、比較的短期的な取組で達成できる成果から、比較的長期的な取組で達成できる成果にも共通するようなテーマとして、また、児童生徒にとってイメージしやすいキーワードとして、「自信」という言葉を挙げました。

また、副題を「～学びの『個別最適化』と『協働化』を通して～」としました。「個別最適な学び」と「協働的な学び」は、めざすべき新しい時代の学校教育の姿として、令和３年１月の中教審答申で提言されています。個別最適な学びの実現という点でいえば、自主学習は児童生徒が自身の興味関心に沿って意欲的に学習に取り組む絶好の機会と考えます。また、その取組を、友だちと認め合い、高め合うものとして個人から学級、学年、学校全体へと広げていくことができれば、協働的な学びとしても自主学習をさらに深化充実させることができるはずです。

「自主学習をどう進めれば良いか分からない。」「最近自主学習の内容がマンネリ化してきたな。」等、お悩みの際は、「自主学習に取り組むことで身につく力ってどんな力なのかな。」と、児童生徒と一緒に考える機会を作ってみてください。その際、今回提示いたしましたテーマを参考に、児童生徒と「自主学習の成果」を共有することができれば、児童生徒もその成果に向かって、見通しを持ってがんばることができるのではないでしょうか（今回、横堤中学校の井寄校長より、より具体的に、「どのような学習経験が自信に結び付くか」をご提案いただいていますので、Ｐ７をご参照ください）。

「自信」とは、揺るぎがないものです。また、人から「自信を持ちなさい。」と言われて持てるものでも、人と比べて持つものでもありません。先行きが不透明で、将来の予測が困難な時代にあって、将来、自分自身を拠り所にするための「自信」を、児童生徒一人ひとりが持つことができるよう、自主学習において、自分なりに考え、決断し、答えを出す機会を持つことが大切です。

自主学習習慣の確立にあたっては、先生方の支援が不可欠です。ぜひ、児童生徒が自分の「好き」や「興味」を存分に表現できるような機会の確保や、お互いの取組を認め合える集団関係づくりを進めていただき、児童生徒の学びに好奇心を持って、励まし、ともに学びながら、支えていただきますようお願いいたします。

令和3年度　第1回自主学習推進チーム会議

令和3年8月6日（金）に今年度第1回目の自主学習推進チーム会議を開催いたしました。会議では、いくつかのテーマについて意見交換を行いました。緊急事態宣言下に開催したこともあり、全メンバーが揃うことはかないませんでしたが、当日の話し合いの様子を少しご紹介いたします。

今年度のテーマ設定について

今年度は、各校が自主学習習慣に取り組むにあたり、自主学習推進チームとして「自信につながる自主学習習慣」というテーマを設定いたしました。このテーマ設定については、P3にて紹介しております。

また、今年度のテーマに基づき、大阪市立横堤中学校　井寄　芳春　校長から「主体的に学び続ける力をはぐくむ自主学習習慣のあり方」と題したご提案をいただきました。今年度のテーマ設定についてリンクしている内容であり、また、取組の意義や、その具体例等についてもご紹介いただいております。P7に掲載しておりますので、ぜひご一読いただき、各校での「自主学習習慣」の取組の参考にしていただければと思います。

自主学習習慣の確立に向けて

自主学習習慣の定着がなかなか難しい中学校での取組の工夫について話し合いました。先生が課題と感じている点については、以下のような意見がありました。

・部活動や塾など、「自由になる時間が少ない」ことがある。
・各教科で宿題が出されるので、宿題の全体量が把握できず、自主学習を進めにくい。
・定期テストなどの結果に結び付けたがるので、長期の取組は学習動機が保ちにくい。
・中学生でも意外とシールを貼ると喜ぶこともある。

なるほど。中学校では
①時間の確保　②教科間の連携　③目標設定
に課題があるようですね。

では、自主学習習慣が定着している小学校の先生方は、どのような工夫をされているのでしょうか。

・週1回提出日を決めて、回収する。
・ノートの最初のページに自主学習ノートの見本を貼り付ける。
・宿題・課題の見直しや、漢字ドリル・計算ドリルなどの間違い直しをさせる。
・友だちや保護者、学年など他者に見てもらい認めてもらう活動や取組を行う。
・計画表を作成し、振り返る。

なるほど。このような工夫をされているのですね。
「間違い直し」などは、授業の復習も兼ねており、取り組みやすそうですね。また、計画表は定期テストの前に取り組む中学校も多いので、生徒たちにとってなじみがありますね。

自主学習ツールについて

今年度は、P2「第2教育ブロック自主学習推進デザインシート」にある「自主学習ツール（手段・方法）」について さらに深めていく予定でしたが、当日はあまり協議の時間をとることができませんでした。

この議題については、第2回自主学習推進チーム会議にて協議する予定です。

今年度の自主学習通信について

昨年度から始まった自主学習習慣の取組。学級、学年で進めていくうえで、困っていること、悩んでいることはありませんか？

次回の自主学習推進チーム会議では、自主学習推進チーム（学び隊）メンバーがそのお悩みを一緒に考え、解決策をご提案できればと考えております。

そこで、**先生方から自主学習の取組に関する質問を募集します!!**

困っていることや悩んでいることのみならず、「取組でこんな成果がでた」などの報告も大歓迎です。

また、昨年度の自主学習通信では、実践例を紹介しましたが、今年度は事務局が、学校を訪問して取組を取材し、みなさんにお伝えする「実践校紹介」を新たに取り入れます。

今回は、城東区にある鴫野小学校を訪問し、取組内容や児童の様子について取材した内容をＰＩＩにご紹介しています。

「ぜひ、うちの学校の実践例を紹介したい。」という声もお待ちしております。

なお、送付されるにあたっては、以下の点にご留意ください。

① 学校名をご記入ください。

② 先生のお名前、担当学年をご記入ください。

③ 悩み事、困りごとを具体的にご記載ください。
　また、実践校紹介に立候補される場合は、特徴ある取組についてご記載ください。

④ 件名は、「自主学習について」としてください。

⑤ 次回の自主学習通信でご紹介させていただく可能性があることをご了承ください。
（名前等については、掲載いたしません。）

みなさんからのメール、お待ちしております。

【送付先】
教育委員会事務局 教育活動支援担当 第2教育ブロックグループ
メールアドレス g07202@city-osaka.ed.jp または、SKIPから「大阪市教育委員会」
→「教育活動支援担当（第2教育ブロックG）を検索してご送付ください。

みなさんからのご応募、
待ってるでござるよ。

「“自信”につながる自主学習習慣～学びの『個別最適化』と『協働化』を通して～」

主体的に学び続ける力を育む自主学習習慣のあり方
―学校と家庭をつなぐ「自主学習課題」の設定を通して―

大阪市立横堤中学校長　井寄　芳春

１.はじめに　―主体的に学び続ける力を育む―

将来の予測が困難な時代となっています。学びの基調も、コンテンツベースからコンピテンシーベースへと大きく変容しています。新学習指導要領においても、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が志向され、学習活動の質を向上させることが期待されています。よりよい人生や社会を切り拓いていくために、主体的に学ぶ力をどう育成していくかが問われるようになっています。第2教育ブロックが掲げている「自主学習習慣の確立」は、このような社会の変化や教育をめぐる動きと重なっています。

自主学習習慣は、主体的に学び続ける力を支えます。教師の意図的、計画的、組織的な取り組みがますます重要になってきているといえるでしょう。自主学習習慣を正しく身につけることを「柱」として、小学校と中学校、学校と家庭、教師と生徒、教師どうしが豊かに連携・協働し、新たな学びのスタイルとスキルを開発・実践していきたいと考えます。

２. 自主学習習慣を育む指導･評価

どの学校でも、「学力格差」が切実な課題になっています。一人ひとりの児童生徒に、自主学習習慣を育むことで、学びに向かう態度が養われ、学力の底割れをなくすことができるのではないでしょうか。そのためにも一貫性、継続性、関連性に着目した指導や評価が求められます。

①一貫性を重視した指導･評価

社会の急激な変化とともに、必要とされる能力も大きく変わってきています。けれども、一貫して重視されるのは、生涯に渡り、主体的に学び続ける力といえるでしょう。この土台となるものが自主学習習慣です。児童生徒や保護者に、自主学習習慣を身につけることの目的や意義について伝え、納得、実行してもらうようなアプローチが欠かせません。

②継続性を意識した指導･評価

児童生徒に自主学習の方法を発達段階に応じて、継続的に指導する必要があります。当初は教師主導であったとしても、徐々に自律的な学習を取り入れ、積極的、能動的に学ぶ力を培っていきたいと考えます。そのためにも、自己評価力を育成することは喫緊の課題です。小中が連携・協働し、児童生徒の実態を考慮しながら、９年間のスパンで継続して指導を積みあげていきたいと考えます。

③関連性を生かした指導･評価

家庭では、自分で立てた計画に基づいて進めることができますが、自由度が高い分、しんどいことは避けてしまいがちになることが課題です。一方で、学校での学びは時間割が決まっており、多くの学習規律を守らなければなりませんが、知識や技能を計画的に積みあげていくことができます。両者の学びの特徴を生かしながら、相互に関連付け、つなぎ、補い合う指導が必要です。

３．児童･生徒の｢自信｣につながる自主学習習慣

自主学習が習慣化している児童生徒は、「自分ならやれそう！」という自己効力感や「どうしてかな？」という好奇心、「もっと調べてみたい！」という探究心を持っています。「できた！」「わかった！」という達成感を経験する機会も多いことでしょう。また、高いレベルの問題に対しても、「やり遂げたい！」という意欲を発揮します。このような内発性と「自信」は深く結びついています。

主体的に学び続ける力を育むためには、一人ひとりの自信につながるような自主学習習慣を身につけることが肝要です。図１は、「どのような学習経験が自信に結び付くか」について整理したものです。

①「自分を知る」ことでつく自信（自己理解）

「好き」や「興味関心」をアウトプットしていくことで、「自分は何に興味をもっているのか」「これから考えていきたいこと」等が明確になります。自主学習を通して、現在の自分への理解が深まり、未来の自分への想像が広がり、自信をもって生きていくきっかけになります。

②疑問点や不明点が解消することでつく自信・苦手を克服することでつく自信（自力解決）

「分からなかったことが分かった」「できなかったことができた」という経験は、自信につながります。

③得意をさらに高めることでつく自信・興味を追究することでつく自信（自己省察）

「自分にしかできないこと」「自分しか知らないこと」があることは、自信につながります。

④一人で学びを進めることでつく自信（自己決定）

学びのテーマを自分で決め、完結させる過程を繰り返すことは、児童生徒が将来、自信をもって自分の人生を歩んでいくためのステップになります。

⑤「みんなちがって、みんないい」を実感することでつく自信（自己表現）

自主学習には決められたテーマはありません。だからこそ、一人ひとりの表現方法が尊重されます。人との比較ではなく、自身が達成した成果をもって成長を実感することが、自信につながります。

⑥ほめられる、認められることでつく自信（自己承認）

ほめられる、認められることで、児童生徒は自身の学びを肯定的に捉え、自信を得るとともに、次の学びへの意欲を持つことができます。

図1　自信につながる学習経験

４．自主学習習慣の育成につながる自主学習課題の工夫

自主学習習慣を確立させるためのポイントは、児童生徒の自信につながるような自主学習課題を設定することです。「自主学習課題」とは、児童生徒が家庭等で、自分が立てた計画に基づいて実施する学習課題のことです。自主学習課題を設定するにあたり、児童生徒の自信を育む観点から、次の6点をあげたいと思います。

①調べたいことや疑問点を探索しながら興味や関心を深めることができる課題（自己理解）

「総合的な学習の時間」等を活用し、防災や環境、異文化理解等の視点から課題を設定し、追究する学習活動の場を設定します。教科の探究活動や創作活動等を年間学習計画の中に位置づけます。

②自分の苦手なことを計画的・継続的に克服できる課題（自力解決）

ノートや教科書を読み返したり、誤答問題を解き直したり、時間を決めてトレーニングを積み上げます。そのための具体的な方法を教え、繰り返し計画的に取り組ませるような課題を設定します。

③成長したことや達成したことを実感したり、確認したりすることができる課題（自己省察）

弱点を補強することとともに、得意なことをさらに伸ばしたり、より高い水準をめざして取り組んだりするような課題を設定します。個人内評価を生かし、その子の伸びや特長を積極的に評価します。

④実生活や実社会、自分の将来と結びついた課題（自己決定）

長期休業期間を利用して、教科学習と実生活・実社会と結びついたレポートを作成させます。インターネットや新聞記事、身近な人への取材、身近な地域や場所の調査等、多様な情報を収集させます。

⑤自分なりの表現が尊重され、集団の中で相互に生かされる課題（自己表現）

制作・創作した作品、レポート、作文等の発表会や展示の機会を設定します。一人一台学習者用端末を活用し、作品のデータを全員で閲覧することもできます（デジタル展示会、オンライン発表会）。

⑥他者（教師・保護者・仲間）からの承認や肯定的な評価が得られる課題に（自己承認）

自主学習習慣は他者からの承認や肯定的な評価によって補強されていきます。教師によるコメントやシール、スタンプ、まわりの仲間との相互評価を行います。

図2　自信につながる自主学習課題

５．家庭と学校をつなぐ自主学習課題のレパートリー

カリキュラムの一貫性、継続性、関連性をふまえ、児童生徒にとって、やりがいのある自主学習課題を設定し、取り組ませたいと思います。図3は、自主学習課題を、「目的」の観点から「習得型」と「活用型」に、「取り組む期間」の観点から「継続型」と「短期型」のそれぞれのタイプに

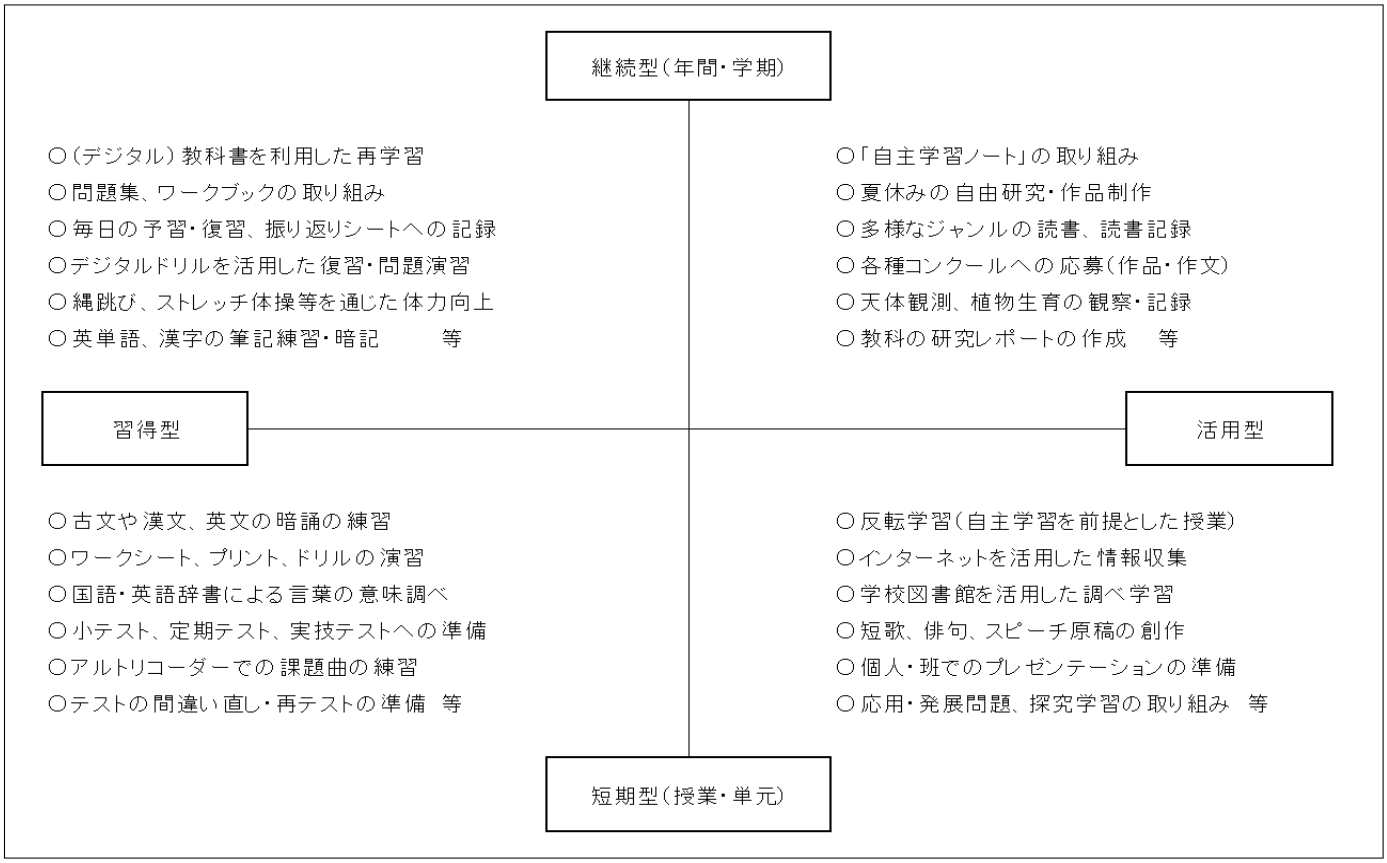


図3 自主学習課題のレパートリー（中学校）

６．自主学習習慣の確立に向けてのポイント

(1)家庭の自主学習を授業に生かす

自主学習で取り組んだことが、テスト結果に直接反映すればやる気は高まるでしょう。自主学習の成果や作品、好事例を授業で積極的に活用することで、児童生徒の励みや学びになります。文化祭等の場で作品展示や発表につなぐことも一つの方法です。単元の指導計画に自主学習を位置付け、児童生徒に見通しを持たせながら、自己効力感を育んでいきたいと考えます。

(2)評価方法を工夫し、指導に生かす

自主学習課題の評価規準・判定基準については、事前に児童生徒にわかりやすく示し、丁寧に説明します。児童生徒に返すときには、評価結果についても具体的に伝えます。個人内評価を通して、成長の様子を積極的にフィードバックすることも有効な手立てといえるでしょう。仲間との相互評価の機会を利用することで、自己評価力を伸ばすことにもつながります。

(3)多様な言語活動を生かす

言語能力は、国語科はもとより、すべての学びの場で必要とされます。例えば、教科書や資料等の教材を読むことやワークシートやノートに書くような言語活動は、日常的に行われています。自主学習においても、収集した情報の記述、読み取った内容の要約、意見文の論述等の力を高めていくための系統的な指導が求められます。教科等横断的に言語活動の充実を図っていきたいと考えます。

(4)個の学びを、集団の学びに生かす

自主学習での「一人での学び」と、話し合い等の「集団での学び」を効果的に組み合わせることで、双方の学びが活性化します。近年、反転学習の実践が数多くみられるようになっています。家庭での自主学習を学校での集団的な学習とつなぐことで、両者の学びがより充実していきます。多様な学習の場において、個と集団の関連を生かすようなアプローチを大切にしていきたいと考えます。

(5)ICT機器を自主学習に生かす

GIGAスクール構想のもと、「個別最適化された学び」への関心と重要性が高まっています。一人一台の学習者用端末の活用が進むことで、「学習の個別化」や「指導の個性化」が充実していくことでしょう。双方向オンライン学習やデジタル教材等を活用した学習のレパートリーを増やし、自主学習にも積極的に導入していきたいと考えます。

(6)自主学習スキルを他の学習場面で生かす

自主学習の内容や方法によって、必要とされる学習スキルも異なります。多様な自主学習スタイルを経験することによって、それらを他の学習場面で活用することができます。また、自主学習スキルを多様に組み合わせることで、学習全体のレベルアップを図ることができるのではないでしょうか。学習スキルは「使うこと」「生かすこと」によって習慣化し、定着していくものと考えます。

７．おわりに

昔から、「予習」「授業」「復習」の三者は、「黄金のトライアングル」と呼ばれてきました。予習によって授業はよりわかりやすくなり、復習によって授業で学んだことをより深く定着させることがでるでしょう。これらのトライアングルを確実に回していくことは、学習の基本です。

けれども、これは学校のみ適用する学習習慣です。生涯学習時代に必要な「主体的に学び続ける力」を育むためには、十分とはいえないのではないでしょうか。授業がなくても、また、教える人がいなくても、自ら学び続ける態度や習慣を早い時期から身につけさせることが大切です。「学校時代に身につけた自主学習習慣」また「自主学習習慣によって培われた自信」は、これからの社会に必要な主体的に学び続ける力の土台になっていきます。

学校では、児童生徒に、自ら課題を設定し、探究し、表現するような学習活動を幅広く経験させることが望ましいと考えます。小学校・中学校を通して、自主学習課題に取り組んだ豊富な経験の蓄積が、かけがえのない自信に結びつき、将来にわたって、主体的に学び続ける意志や態度につながっていくことでしょう。

「目的や意図が示されること」や「明確な評価規準が与えられること」「取り組み方が具体的に教えられること」「ていねいに評価され、継続して承認されること」で、自主学習に取り組む態度が育まれていきます。ただし、自主学習習慣を確立させることについては、教師個人による指導方法の工夫のレベルにとどまらず、学校として一貫性、継続性・関連性に基づいたカリキュラム・マネジメントのもとで取り組むことが肝要であると考えます。

実践校紹介

鴫野ノートの導入を通して見えてきた成果

～大阪市立鴫野小学校～

昨年度末から第2教育ブロック学校支援予算を用い、学校オリジナルの自主学習ノート「鴫野ノート」を作成し、自主学習に取り組んでいる、大阪市立鴫野小学校 福山 正樹校長先生に、ノート導入の経緯などをお伺いしました。

福山正樹 校長

事務局 ： 今日はお時間を取ってくださりありがとうございます。
まず、自主学習についてはどのような取組状況ですか。

福山校長： 令和2年度ブロック化による学校支援事業として、第2教育ブロックでは「自主学習習慣の確立」に向けた取組を行うこととなり、本校でも自主学習の取組をスタートさせました。
令和2年に私が着任する以前は、いくつかの学級で自主学習の取組をしていたようですが、令和2年度から3年生～6年生全学級で取り組みました。

事務局 ： 「鴫野ノート」はどのような経緯で取り入れられたのですか？

福山校長： 前年度から引き続き「自主学習習慣の確立に向けた取組」を進める中で、教頭先生から「鴫野小オリジナルノート（鴫野ノート）」の作成について提案があり、第2教育ブロック学校支援予算を用い、鴫野ノートを作成することになりました。

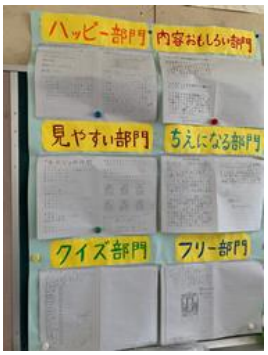
事務局 ： 「鴫野ノート」導入後、児童の様子に変化はありましたか。

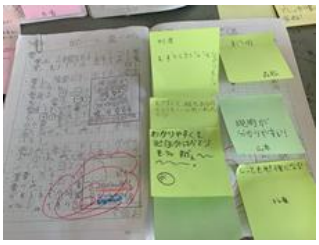
福山校長： 「鴫野ノート」は児童1人に1冊配付しています。
学校オリジナルノートということで児童も喜んで活用しています。今年度の全国学力・学習状況調査では、2年前に比べ成績が向上するなど、うれしい結果も出ています。

鴫野ノート（左：表表紙、右：裏表紙）
校舎の写真や、学校教育目標、校歌などがレイアウトされています。

事務局 ： 学級担任や保護者の反応はいかがですか。

福山校長： 保護者から特に意見はありませんが、家庭での協力は得られているかと思います。
担任の先生方は、熱心に取り組んでおられます。
学級の掲示板で好事例などを紹介されている先生もいます。





左：部門ごとに児童の自主学習ノートを紹介しています。
右：児童の一言コメントを付箋で貼っています。

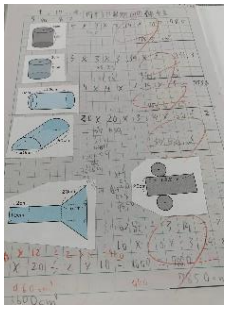
事務局　：自主学習ノートは昨年度から取り入れられたとのことでしたが、運用ルールなど何か教員の方へ示されましたか。

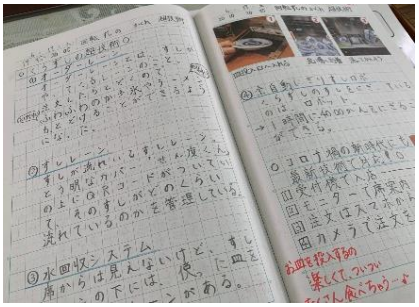
福山校長：特に管理職から「こういうルールで…」とは示していません。先生方の自主性に任せています。学年等では、取組内容をそろえているかもしれませんが、とにかく「自主学習は宿題ではない。どのような自主学習をしてもしっかりと褒めてもらえる」ことが、児童の心理的負担を下げ、無理なく取り組めている大きな要因になっているかと思います。ノートにシールを貼ってもらったり、教室に掲示してもらったりすることも、児童にとってはモチベーションを上げる一つの要素になっているようです。

事務局　：自主学習習慣の確立に向けた課題はありますか。

福山校長：鴫野小での自主学習の取組を中学校へ接続していくためには、小中連携や小小連携を進めていきたいですね。
児童にとっても、先生方にとっても負担にならないように、楽しんで取り組んでもらえればと思います。

児童のノート





事務局　：2学期よりnavimaが各校に導入されました。鴫野小学校では既に活用されていますか。

福山校長：1学期から1人1台端末の活用を進めていましたので、先生方もICTに堪能な先生を中心に、スムーズに活用を進められています。
2学期に入り、すきま時間や自習時間に活用しています。低学年の児童でも、主体的に問題を解くなど、集中して取り組めています。
プリントの準備など、従来の先生方の負担が軽減されるうえに、学習者のレベルに応じた問題が出題されるため、自主学習との相性もよさそうなので、今後の活用に期待ができると思います。

事務局　：次年度に向けての取組は？

福山校長：次年度も引き続き「鴫野ノート」を作成・活用する予定です。
また、1年生から自主学習が実施できればと思いますが、まずは、無理せず、できる範囲で取組を進めていければと思います。

【取材後記】
　昨年度から自主学習の取組が始められたとは思えないほど、充実した内容でした。
休日のみ取り組んでいる児童や、授業の復習や自分の好きなもの（キャラクターなど）について調べている児童もあり、児童自ら自主的に学びを進めている様子がよくわかりました。
　また、「鴫野ノート」表紙の裏面には、昨年度第2教育ブロックで作成した「自主学習の手引き」から、各学年の取組内容の例も記載されており、自主学習の内容選びの一助になっているようです。
　今後、低学年への取組や、中学校区での広がりなど、さらなる深化充実を期待しております。